

入試雑感

文学的文章

本年度の入試問題について、たくさんの方に問題に直接触れている編集委員が率直な感想を述べる。
(太字の出典は、本問題集に採録)

今年も文学的文章が出題されたのは特定の大学である。まず、**21**東京大の第四問は従来随筆が出題されていたが、二年連続で小説が出題された。仲谷実織の『宿雨のあとで』である。解答する際は本文の中に根拠となる表現が明示されていないため、状況を含むさまざまな表現から推測し、それを自分の言葉で言語化することが求められている。昨年に比べて明らかに難易度が上がっている。難化したのは**24**京都大の高浜虚子の随筆『写生趣味と空想趣味』も同様で、比喩の説明は京都大でよく出題されるが、語句の難しさや回りくどく思えるような論理の展開に手こずった受験生も多かったと思われる。また、昨年ほど戦争をテーマにした作品の出題は多くはなかったが、**18**東北大の林真理子『玉呑み人形』は戦争から戻った様子が変わってしまい、家族から疎まれる父親の姿を娘の視点から読み取る問題であった。戦争をテーマにした小説からの出題が多いのが**20**広島大である。遠藤周作の『あまりに碧い空』が出題された。知人の死をきっかけに戦争中の出来事を回想し、多くの人々がむなしく死んだ戦争を忘れたかのような戦後の若者たちの振る舞いに反感を覚える主人公の「俺は戦後は嫌いだ」という叫びには痛切なものがある。**23**大阪大文学部では川上未映子の『夏物語』が出題された。設問はすべて「本文の内容をふまえて説明しなさい」というもので、本文の丁寧な読解を前提としたうえで、どこまで書いたらよいかという判断を受験生に突きつける設問であった。素材の文章が素晴らしいものの、本文の省略・改変があるので、余裕のある諸君は本来の文章の「二」アンスをくみ取るために、出典作品の読解も試みてほしい。岡山大は南木佳士の『冬物語』が出題された。設問では「どのようなものとして捉えているか、具体的に」、あるいは「日常生活をふまえて」説明せよとあり、設問の前提に対応した解答づくりが求められている。香川大では堀辰雄の『樹下』全文が出題された。この大学の設問の特徴は「詳しく説明せよ」である。本文の要素をできるだけ解答に取り込ませようとしていると思われるが、受験生にとっては時間との闘いである。どの大学についても、一見容易そうな設問であっても対応すべきポイントがあり、そこを見逃すと解答が定まらないという出題が目立った。

論理的文章

本年度の入試問題では、「人権感覚」の構築とその過程の複雑さや揺らぎといった古くて新しい問題が主題となったものが目立った。シェンダーや性差別が話題となる文章や、現代社会の効率性を問い直し、人間はいかに生きるべきかを問う文章も複数校で出題された。**9**名古屋大では、一方的に権利を主張するのではなく、身体性を重視しながら、自己の複雑さと向き合う必要性が問われた。**4**愛知県立大でも、自炊を手がかりに自分と向き合う大切さが問われた。**12**東北大では、身体性を基盤に、普遍を装う男性文化の中に潜む、文化未満とされる女性文化を自覚し、男性文化の覇権性を批判する必要性が問われた。**1**島根大は、性差別への無関心さを問い直す問題であった。**10**北海道大では、効率的手段ではなく、苦悩しつつ自力で物の見方を見つけ出すことを促すのが教育の営みだとする問題が出された。**17**東京大では、「権威」を弱毒化し、上下でも左右でもない「斜め」の関係を提唱し、オープンダイアログの可能性が示されていた。大学は学問の場であり、その適性を問うという点からも、哲学的な考えや物の見方、人間や社会を問い直す文章が出題される傾向は続くだろう。

また、ここ数年の傾向と同じく、本年度も文化人類学的内容の文章が複数出題された。いずれも近代資本主義社会と、それとは別の社会との比較によって、現代人が失っているものを指摘する内容だった。**8**広島大では、個人主義と自助努力に基づく近代社会と、他者を組み込んだ「他助努力」の社会との対比が、**3**滋賀大では、抽象化された情報社会に生きる現代と、直接体験を基盤とする社会との対比が、それぞれ出題された。さらに、ほかの社会との比較ではなくても、近現代社会の問題点を指摘する文章からの出題も多い。**11**神戸大では、市場交換の原理に基づく「能力主義」に対する疑問が、**7**大阪公立大では、加速する外的時間とは別に流れる人間の内的時間についての内容が出題された。また、物事の本質を捉えようとする哲学的な文章の出題も増えている。**14**大阪大の科学における「演繹・帰納」・「アブダクション」の違いを問う文章や、**15**京都大の言葉や恋愛の本質を問う文章、**16**九州大の「哲学としての美学」の歴史の意味について問う文章などがその典型である。

いずれも表面的な文章理解では対処できない内容である。日頃から社会の問題にしっかりとアンテナを張り、思考を深めておくことが大切である。